

平成30年度第4回長門警察署協議会会議録

開催日時	平成31年2月12日（火） 15時00分から17時10分まで	
開催場所	長門警察署講堂	
出席者	委員	兼澤会長、末永委員、河本委員、佐々木委員 計 4名
	警察署	署長、次長、警務課長、会計課長、刑生課長、地域課長、 交通課長、警備課長、警務係長 計 9名
議題	1 所管業務の推進状況について 2 交通死亡事故抑止対策の推進について	
<p>1 会長挨拶</p> <p>今回は、本年度最後の警察署協議会となる。この1年間、署長を始め、長門署員の皆様には、長門市の安全安心の確保に尽力していただき、感謝申し上げます。本日の諮問事項は、「交通死亡事故抑止対策の推進」であるが、事故は、いつ、どこで発生するか分からず、市民一人一人が交通事故防止に対する意識を高めていく必要があります、我々協議会委員も全面的に協力していきたいと考えている。委員の皆様にあっては、悲惨な交通事故を1件でも減少させるため、忌憚のない積極的な発言をお願いします。</p> <p>2 署長挨拶 (省略)</p> <p>3 所管業務の推進状況（署長）</p> <p>(1) 刑事生活安全課業務の推進状況</p> <p style="margin-left: 20px;">ア 管内の刑法犯・特別法犯の認知（検挙）状況（平成30年中）</p> <p style="margin-left: 20px;">イ 犯罪抑止総合対策の推進状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 当署の指定犯罪及び重点地域 ○ 犯罪抑止に向けた取組重点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 犯罪から市民を守る対策の推進 ・ サイバー空間の脅威に対する総合対策の推進 ○ 犯罪検挙活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 検挙対策の推進 		

- ・ 主要犯罪検挙事例
- (2) 地域課業務の推進状況（平成30年中）
 - ア 地域の安全・安心確保のための活動
 - 要望把握活動
 - ・ 巡回連絡実施世帯数
 - ・ 会合出席状況
 - 問題解決活動
 - ・ 地域警察官の犯罪検挙状況
 - ・ 地域安全活動
 - 情報発信活動
 - ・ 交番・駐在所速報発行状況
 - ・ 高齢者安全訪問指導の実施世帯数
 - イ 迅速的確な初動活動の推進
 - 110番受理状況
 - トータルリスポンスタイム
- (3) 警備課業務の推進状況
 - ア 昨年中の警備関係業務
 - 災害警備
 - ・ 署災害警備本部の設置
 - ・ 各種訓練
 - ・ 広報活動
 - 警護警備
 - 国際テロ・沿岸対策
 - ・ 管理者対策
 - ・ 警戒警備
 - ・ 沿岸対策
 - 事件検挙
 - イ 本年の警備情勢等

4 協議・検討

(委員)

巡回連絡で各家庭を訪問したときに嫌な顔をされることはあるか。そうしたとき、特に気を付けていることや心掛けているようなことはあるか。

(地域課長)

長門市民は人柄がよく、警察の活動に理解を示してくれる人が多いので、巡回連絡で訪問したときも快く受け入れてもらっている。

(委員)

今の説明を聞いて、長門市は市民と警察の間で、しっかりと連携がとれているのではないかと思った。次に、長門警察署において、これまで取り扱った児童虐待事案について、支障のない範囲で教えてもらいたい。

(刑生課長)

児童の身体等に直接危害を加えるという事案はないが、児童の目の前で激しい夫婦喧嘩を行う等、広い意味での虐待事案は何件かある。

(委員)

他県において、痛ましい児童虐待事案が報道されているが、しつくと称しての虐待は決して許されるものではない。子供を虐待する親は、自分も親から虐待を受けていたケースが多く、その辺りにも問題があるのではないかと思う。

(委員)

児童虐待については、昔からあったと思われるが、近年になって表に出てきた感がある。やはり、近隣で虐待やその疑いのあることを目や耳にすれば、直ぐに警察に通報し、地域住民と警察が連携を強化していくことが必要だと思う。幼少時代にしつくと称して親から体罰を受けたり、学校で非常識、理不尽な鍛え方をされたことに対し、「自分がやられたことを子供にもしなければいけない」という誤った考えをもっている人も少なくないが、暴力は絶対に許されるものではなく、家庭内でしっかり話し合い、考えていくことが大切ではないかと思う。

(委員)

先ほど、110番受理状況の説明で「その他」という項目の件数が592件と最も多かったが、「その他」の内容としてはどのようなものがあるのか。

(地域課長)

「その他」とは110番通報に馴染まないものや、傷病人、迷子、酔っ払い、自然災害、相談のほか、既に通報があったものと重複した通報等が含まれている。

(署長)

それ以外にも、いたずら電話を始め、110番で電話番号を聞いてくる者、救急車を呼んでくれという者、酔っ払いからの意味不明の電話等も含まれる。

(委員)

地域警察官が投函する「あんしんカード」であるが、カードに対する返信方法はどのようになっているのか。また、カードを回収して内容を検討できるものとなっているのか。

(地域課長)

「あんしんカード」は、警ら要望があった場合、その不安を解消する目的で、夜間警らを実施した際に投函するもので返信するようにはなっていない。

なお、「あんしんカード」とは別に、事件の被害者に対しては刑生課から被害者連絡票というものを送付し、返信を受ける制度がある。

(署長)

「あんしんカード」には、他に要望等があれば警察署に連絡するよう記載されている。

(委員)

巡回連絡で訪問した際、不在の場合はどうしているのか。
(地域課長)

近隣住民から在宅時間などを確認して再度訪問している。

5 諮問事項説明

「交通死亡事故抑止対策の推進」について、交通課長が以下の項目に沿って説明を行った。

- (1) 交通事故発生状況（平成30年中）
- (2) 当署の交通事故の特徴（平成30年中）
- (3) 過去10年間の発生状況との比較
- (4) 交通事故抑止対策の推進
 - ア 交通安全意識の向上
 - イ 高齢者対策の推進
 - ウ 悪質・危険運転者対策の推進

6 協議・検討

(委員)

対向はみ出しの交通事故が多いという説明があったが、私も何度か怖い思いをしたことがある。はみ出し運転をする人は明らかに前方を見ておらず、車内でスマートフォン等を操作しているのではないかと思う。交通死亡事故に直結するおそれの高い対向はみ出し車両の取締りを強化してもらいたい。

(交通課長)

走行中のスマートフォンの使用は「携帯電話の使用や画像注視」の違反で取締りを行っており、蛇行運転や無謀運転の交通情報にも迅速に対応している。

(委員)

対向車が蛇行しながら向かって来ることに気付いた場合、どのように対処すればよいか。

(署長)

まず、速度を落とし、左に除けて止まるのが一番良い。そうすれば、衝突の可能性も減少し、万一、衝突された場合でも衝撃力は半減し過失もない。

なお、咄嗟の急な減速により後続車に追突される可能性も考えられるが、後続車は安全な車間距離を保持する義務がある。

(委員)

反射材の着用率向上の施策として、JR長門市駅に反射材のコーナーを設置した理由について伺いたい。

(交通課長)

長門市駅は利用客が多く、着用をアピールするのに効果的であると思われるからで、現に多くの人が反射材を利用している。

(委員)

高齢者がよく利用するスーパーにも反射材を設置してはどうか。また、反射材の捻出先や金額はいくら位するのか。

(交通課長)

反射材は交通安全協会から寄贈してもらったものや警察本部から配分されたものを使用している。

(署長)

反射材にもいろいろな種類や形状のものがあり、一概には言えないが、金額的には100円程度である。長門市駅に反射材のコーナーを設置した理由は、利用者の多くが歩行者や自転車使用者であり、スーパーは車での利用者が多いため、設置の対象外としたものである。

(委員)

私は三隅駅の近くに住んでいるが、駅から出てきた高校生の自転車が車道の反対車線を走っているのを何度か見掛けたことがあり、大変危険であった。

(署長)

管内の高校と連携しながら、自転車の通行方法等について指導し、注意を喚起していきたい。

(委員)

長門警察署管内では飲酒運転はあるのか。

(交通課長)

残念なことではあるが、昨年も3件検挙している。

(委員)

最近はよく分からないが、昔は長門市駅付近の飲食街で飲酒取締りを行っていた記憶がある。

(交通課長)

今でも取締りのため検問を実施している。

(署長)

検問以外にも、パトカーで車両を追尾しての取締りも行っている。

(委員)

交通事故を防止するため、車の運転者に対しては、特に夜間のハイビームの活用を広報し、高齢歩行者に対しては、JAと協賛して営農が主催する会合において、高齢者を集めて道路を横断する際の注意事項等を指導してはどうか。ルールはルールとしてきちんと守らせるという目に見える形での広報や指導が必要だと思う。また、市や企業等を含めた交通事故防止に対する啓蒙活動を行い、企業は安全運転管理者だけでなく、全ての従業員に対する教育や指導を行っていく必要がある。

(委員)

地域や行政も交えて安全運転に対する意識を高める活動を推進してもらいたい。

(署長)

行政を含めた会議は定期的で開催しているが、会議に出席した方が、それ

それぞれの職場において交通安全に関する指導や教育を行っていただくということが重要となってくるので、今後も継続して力を入れていきたい。

(委員)

交通死亡事故0（ゼロ）を目標に掲げて、市民一人一人に広報や運動を徹底し、交通安全意識の高揚を図ってはどうか。

(署長)

毎年、県警も当署も交通死亡事故ゼロを目標に掲げて各種広報や運動を展開しており、今後も継続していく。

7 その他の意見・要望

(委員)

先日、運転免許証の更新に行ったとき、「環状交差点」なるものがあるという話を聞いたが、これはどのようなものか。

(署長)

交差点の形状をロータリー状にして進入路と進出路を設け、ロータリー内は常に時計回りとし、進入、進出は常時左折することで信号機をなくして走行できる交差点のことで、山口県内には設置条件に見合うところがないため設置されていない。

8 逮捕術大会DVDの視聴

協議会終了後、昨年の県下逮捕術大会DVDを視聴した。

9 配付資料

- ・ 平成30年度第4回長門警察署協議会資料（警察署作成）
- ・ 日本の警察～平成30年版（警察庁作成）

10 次回警察署協議会開催日程

次回の警察署協議会は、平成31年5月頃に開催する予定である。